青木毅君

作曲

吹雪逆巻く日もあれど 雪の白さに映ゆる我等が恵迪寮

真実求むは風の教へなりまこともと 正義の迪を見定めて

雨風寒さに怯ゆるとも
あめかぜさむ
おび 土の黒さに萌ゆる新たな芽が一つ

宴討論酔ひしれて

恵迪に根づくは土の教へなり

空の青さに育

つみんなの自治意識

熱風日干の害あれど

汗を流すは陽の教へなり 理想高く足は大地につきて

秋 の 疾 ^{はやて} 四 頂上の実が墜 (に聳ゆ大きな林檎の木 つるとも

自律目指すは生命の教へなり その精神もて糧として